

「ノアは神と共に歩んだ」
ヘブライ人への手紙 11章7節

7 信仰によって、ノアはまだ見ていない事柄について神のお告げを受けたとき、恐れかしくみながら、自分の家族を救うために箱舟を造り、その信仰によって世界を罪に定め、また信仰に基づく義を受け継ぐ者となりました。

ご承知の通り、あの方舟を作ったノアの出来事が今朝の主題です。
記事は創世記6章からです。

- 5 主は、地上に人の悪が増し、常に悪いことばかりを心に思い計っているのを御覧になって、
- 6 地上に人を造ったことを後悔し、心を痛められた。
- 7 主は言われた。「わたしは人を創造したが、これを地上からぬぐい去ろう。人だけでなく、家畜も這うものも空の鳥も。わたしはこれらを造ったことを後悔する。」
- 8 しかし、ノアは主の好意を得た。
- 9 これはノアの物語である。その世代の中で、ノアは神に従う無垢な人であった。ノアは神と共に歩んだ。
- 10 ノアには三人の息子、セム、ハム、ヤフェトが生まれた。
- 11 この地は神の前に墮落し、不法に満ちていた。
- 12 神は地を御覧になった。見よ、それは墮落し、すべて肉なる者はこの地で墮落の道を歩んでいた。
- 13 神はノアに言われた。
「すべて肉なるものを終わらせる時がわたしの前に来ている。彼らのゆえに不法が地に満ちている。見よ、わたしは地もろとも彼らを滅ぼす。14 あなたはゴフェルの木の箱舟を造りなさい。箱舟には小部屋を幾つも造り、内側にも外側にもタールを塗りなさい。
- 15 次のようにしてそれを造りなさい。箱舟の長さを三百アンマ、幅を五十アンマ、高さを三十アンマにし、
- 16 箱舟に明かり取りを造り、上から一アンマにして、それを仕上げなさい。箱舟の側面には戸口を造りなさい。また、一階と二階と三階を造りなさい。
- 17 見よ、わたしは地上に洪水をもたらし、命の霊をもつ、すべて肉なるものを天の下から滅ぼす。地上のすべてのものは息絶える。
- 18 わたしはあなたと契約を立てる。あなたは妻子や嫁たちと共に箱舟に入りなさい。
- 19 また、すべて命あるもの、すべて肉なるものから、二つずつ箱舟に連れて入り、あなたと共に生き延びるようにしなさい。それらは、雄と雌でなければならない。
- 20 それぞれの鳥、それぞれの家畜、それぞれの地を這うものが、二つずつあなたのところへ来て、生き延びるようにしなさい。
- 21 更に、食べられる物はすべてあなたのところに集め、あなたと彼らの食糧としなさい。」
- 22 ノアは、すべて神が命じられたとおりに果たした。

7章

- 1 主はノアに言われた。
「さあ、あなたとあなたの家族は皆、箱舟に入りなさい。この世代の中であなただけはわたしに従う人だと、わたしは認めている。2 あなたは清い動物をすべて七つがいつ取り、また、清くない動物をすべて一つがいつ取りなさい。3 空の鳥も七つがいつ取りなさい。全地の面に子孫が生き続けるように。
- 4 七日の後、わたしは四十日四十夜地上に雨を降らせ、わたしが造ったすべての生き物を地の面からぬぐい去ることにした。」

5 ノアは、すべて主が命じられたとおりにした。

1) ノアと神様との関係を意識させる描写

そこには単純で素直な温かい信頼関係がある

6 章

8 しかし、ノアは主の好意を得た。

9 これはノアの物語である。その世代の中で、ノアは神に従う無垢な人であった。ノアは神と共に歩んだ。

22 ノアは、すべて神が命じられたとおりに果たした。

7 章

5 ノアは、すべて主が命じられたとおりにした。

ノアは単純に、純粹に神に対する礼拝の心を持っていた人でした。神様の助けを得て生きていられるのだということを知っていた人だったと思います。

それゆえ、神様とのやり取りの中でノアは口を挟むことを一切せず、黙々と神様から託された役割を果たしていきました。

しかし、考えてみるとノアは、おそらく洪水など味わったことはなかったでしょうし、そもそも「船」がどういふものかも知らなかったのではないかとさえ言われています。その上、超特大の船ですからそれを作ることに驚きを感じたと思います。木材の切り出しから、寸法の通りに切って組み立てるわけですから、それはそれは神経を使う一大事件とも言える出来事だったと思います。神様の助けを得ながら、ノアは黙々と作業を続け、完成させます。

ある資料によればこうありました。

箱舟はいとすぎの木で作り内外にまつやにを塗りこんで水の侵入を防ぎました。

大きさは長さ137m、幅が23m、高さが14mで3階建てで内部に小部屋を多く設けました。

(今の船に換算すれば 5万トン級のタンカーに相当します。長さと同幅・高さの比は今日の船舶工学を駆使した近代船舶の比率とまったく同率です。)

2) 神様の側からのノアへの配慮と礼拝

7 章

16 神が命じられたとおりに、すべて肉なるものの雄と雌とが来た。主は、ノアの後ろで戸を閉ざされた。

24 水は百五十日の間、地上で勢いを失わなかった。

8 章

1 神は、ノアと彼と共に箱舟にいたすべての獣とすべての家畜を御心に留め、地の上に風を吹かせられたので、水が減り始めた。

40 日 40 夜の大洪水のあと水は 150 日間勢いよく増え続け、とても外にはでられませんでしたが。しかし、その間、神様はノアとその船の全ての生き物に対して心に向けておられたと書かれています。

これは大きな安心ですね。そしてその後、ノアは神様への礼拝を捧げます。

13 ノアが六百一歳のとき、最初の月の一日に、地上の水は乾いた。ノアは箱舟の覆いを取り外して眺めた。見よ、地の面は乾いていた。 14 第二の月の二十七日になると、地はすっかり乾いた。

15 神はノアに仰せになった。

16 「さあ、あなたもあなたの妻も、息子も嫁も、皆一緒に箱舟から出なさい。

17 すべて肉なるものうちからあなたのもとに来たすべての動物、鳥も家畜も地を這うものも一緒に連れ出し、地に群がり、地上で子を産み、増えるようにしなさい。」

18 そこで、ノアは息子や妻や嫁と共に外へ出た。19 獣、這うもの、鳥、地に群がるもの、それぞれすべて箱舟から出た。

20 ノアは主のために祭壇を築いた。そしてすべての清い家畜と清い鳥のうちから取り、焼き尽くす献げ物として祭壇の上にささげた。

21 主は宥めの香りをかいで、御心に言われた。

「人に対して大地を呪うことは二度とすまい。人が心に思うことは、幼いときから悪いのだ。

わたしは、この度したように生き物をことごとく打つことは、二度とすまい。

22 地の続くかぎり、種蒔きも刈り入れも

寒さも暑さも、夏も冬も

昼も夜も、やむことはない。」

3) ノアの信仰

7 信仰によって、ノアはまだ見ていない事柄について神のお告げを受けたとき、恐れかしこみながら、自分の家族を救うために箱舟を造り、その信仰によって世界を罪に定め、また信仰に基づく義を受け継ぐ者となりました。

方舟制作も洪水もノアにとっては未知の出来事でした。しかし、神様から託された役割と自覚し黙々と完成させました。

神様への信頼と家族への愛がありました。

そして何よりも「神様がなさろうとしていること」に全幅の信頼よせていたのです。

ですから、ここにはノアと神様との間の議論の記録はありません。

自分とはにかく、神様が託してくださったことに大きな喜びを感じ

それを実行するために前に進むのみだと考えていたのです。

ちなみに、ノアという名前は「慰め」という意味があります。

彼はまさに「神様を信頼して従い、行動すること」で彼も彼の家族も「大きな慰め」を得たのです。

ノアはなぜ神様と議論をしなかったのでしょうか。

こんなに大きな建造物ですし、費用は、そもそも何のために、ノアの心には疑問や心配はあったと思います。でも、ノアは、その心配さえも神様にお任せしていたのでしょうか。

ノアは常に「神様の前にまっすぐ立って」いたのです。

信仰とは「信頼」です。

神様の「存在」「その心の大きさ」「その愛と誠実さ」をノアは信頼していたのです。

* MACF 礼拝映像はこちらです

<https://youtu.be/euiKmx-OF9k>